

科目名	電子工学特論	英語科目名	Advanced Theory of Electronic Engineering
開講年度・学期	2010年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科電子システム工学専攻1, 2年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2	単位種類	学習単位(45時間単位)
担当教員	金野茂男	居室(もしくは所属)	テクノ棟4階講義室I
電話	0285-20-2259	E-mail	kinno@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本科で開講されている電子工学、等の科目を基礎とし、本特論ではそれらの発展・応用基礎知識を習得する。 2. 応用分野として、各種センサ・デバイスの物性特性・電子特性・使用方法等を習得する。 3. 開発した各種電子機器などの紹介を行うので、それらの開発意図、動作内容、製作手順などの理解。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主に定期試験の成績で評価する。 2. 宿題、レポートなどの提出も若干評価に取り入れる 3. 成績はA, B, C, Dで評価する A=優、B=良、C=可、D=不可 			
評価方法			
1. 成績の評価はC以上を合格とする			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子工学序論 4週 2. センサの序論 2週 3. 中間試験 4. 力、光、温度、速度、圧力の各種センサ 5週 5. 期末試験 6. 上述にとらわれず、適宜に開発した電子機器の紹介 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前もって、教科書を精読し、予習をしておくこと。 2. 授業受講後には理解できない箇所がないようにすること。 	
キーワード	電子工学、半導体、デバイス、センサ、電子機器		
教科書	都甲、宮城「電子・情報工学講座25 センサ工学」倍風館		
参考書	多数あるので特に指定しない。が、関係している項目などに関しては、図書館などで自発的に調査すること。		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A)			
JABEE 基準1の(1)との関係		(c)、(d)、(g)	
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目		電子工学、量子工学、電磁気学、応用物理学、電子回路	
現学年の関連科目		専攻科特別研究	
次年度以降の関連科目		専攻科特別研究	
連絡事項			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者が少数の場合にはゼミナール形式とする。 2. 問題や課題は必ずやること 3. 板書されたことだけをノートに取らず、大事な話はメモを取るようにすること 4. 最低限、教科書の中身をしっかりと理解すること。 5. 積極的にディスカッションに参加し、発言すること。 			
シラバス作成年月日：2010年 3月 日			